



# いま求められている授業について

## キーワード1 良い授業

「良い授業」とは何でしょうか。一人ひとり考えがあると思います。また、教科によっても違いがあるのかもしれませんが、常に良い授業の実現を目指し、実践を重ねていくことが大切です。

例えば、授業を通して、変化の激しい社会を生きていくための「生きる力」を育成することが求められています。そこで、忘れてはならないことは、「授業は生徒に力を身に付けさせるためのもの」ということです。「良い授業」とは、一つには「生徒に身に付けさせたい力」をしっかりと養うことのできる授業ということになります。

## キーワード2 学力の3要素

学校教育法第30条第2項（第62条で高等学校にも準用）の中で、「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」と学力の3要素が示されました。これを受けて、学習指導要領では、これらの学力の育成が求められています。

### 学力の3要素

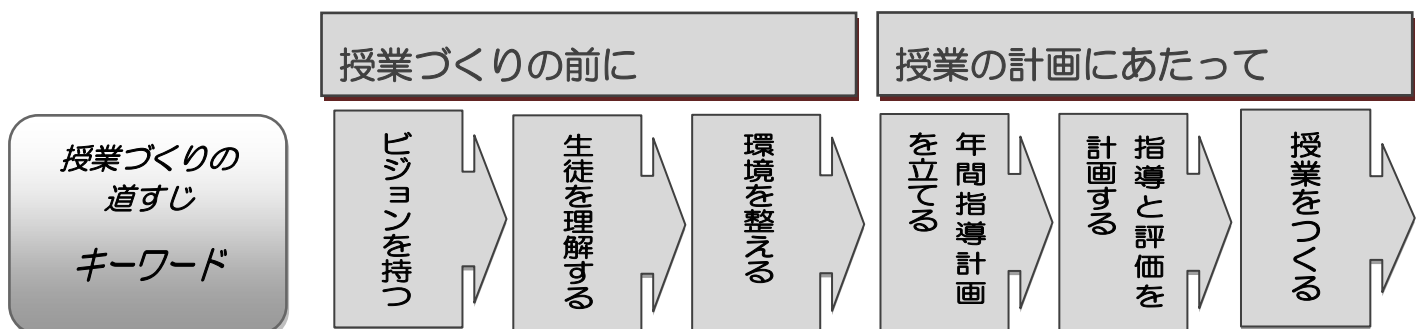
○基礎的・基本的な知識・技能      ○思考力・判断力・表現力等      ○学習意欲

## キーワード3 言語活動の充実

学力の3要素にある「思考力・判断力・表現力等を育成する」という観点から、各教科における言語活動の充実が求められています。

これからの社会を生きる生徒に必要なことは、論理的な思考や感性を働かせながら問題解決の方法を探り、自分の考えを自分の言葉で表現する力や他者の考えを理解しコミュニケーションをとる力であることから、言語活動として記録、要約、説明、論述といった活動を全ての教科で実践することが位置付けられました。

さて、言語活動の充実は、活動をすること自体が目的ではなく、言語活動を通して、生徒に**思考力・判断力・表現力等を育成すること**が目的です。大切なことは、生徒が自分で考え、友達と考えを交流しながら自身の考えを深める活動を充実させることなのです。



## キーワード4 単元（題材）による授業構想

「良い授業」を実現するためには、1 単位時間の授業のことだけ考えていたのではうまくいきません。そこで、「単元（題材）による授業構想」が必要となります。

「単元（題材）による授業構想」とは、学習指導要領にある各教科・科目の目標や内容を実現するために、ある程度のまとまりを単元（題材）として授業を考えることです。各教科・科目における目標の実現は、1 単位時間の授業で実現できるものではありませんから、内容のまとまりを単元（題材）として、単元（題材）を通して力を身に付けることができるように構想することが必要になるのです。

「単元（題材）による授業構想」において、生徒の学びを想定することで、効果的な学習活動を位置付けることができます。

## キーワード5 目標に準拠した評価・観点別評価

各教科・科目の目標を実現するために授業を実践します。目標を実現したかどうかを判断するために、学習のねらいが実現された状態を事前に具体的に想定して、「評価規準」を設定し、評価します。これを目標に準拠した評価といいます。その際、目標実現のために、4 つの観点を決めて評価規準を考えます。これが観点別評価です。

### 4つの観点をポイント

- 関心・意欲・態度・・・単元（題材）全体の学習を通して育成する力です。生徒が学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を身に付けているかどうかを評価します。
- 思考・判断・表現・・・各教科・科目の内容に即して思考・判断し、その内容を表現する能力を生徒が身に付けているかどうかを評価します。
- 技能・・・・・・・・・・各教科・科目において習得すべき技能を生徒が身に付けているかどうかを評価します。
- 知識・理解・・・・・・・・各教科・科目において習得すべき知識や重要な概念等を生徒が身に付けているかどうかを評価します。

## キーワード6 指導と評価の一体化

評価規準を明確にして授業を実施するという事は、自らの指導について振り返ることにつながります。例えば、多くの生徒が評価規準を実現できない場合には、その原因は生徒のみではなく、教師の指導にも課題があると考えられます。自身の指導はどうだったのかと反省し、次の授業をより良いものにしていくことが、指導と評価の一体化への第一歩です。

